



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和4年1月20日(木)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

コロナ禍に考えてほしいこと～与える愛(優しさ)の実践を～

○ 人間は、本能のままに生きれば、欲ばかりの人生となりがちです。「あれも ほしい、これもほしい」と、物質的なことから精神的なことまで、ほしいものだらけです。その中で、愛もほしいと思うでしょう。愛と言えば大げさですが、「自分をいたわってほしい。励ましてほしい。なぐさめてほしい」という感情です。

○ しかし、世の中すべての人が、こうして互いに、自分のないものを求めたらどうなるでしょうか。世の中に、「ほしい」「ほしい」という人ばかりがあふれたら、どうなるでしょうか。あちらこちらに求める人間が大勢いて、いつでも、自分中心に、自分がほしいもの(愛や優しさ)を求めていたら、それは、ダメな世界になると思うのです。

○ そうした世界では安心して暮らすことができません。自分中心にものごとを考え、自分はもらう一方の世界ではダメなのです。天国と地獄があるとしたら、地獄には、「人のために何かをしよう。親切にしよう。優しくしよう」という人はいないと思います。地獄の住人は、みんな自分勝手だそうです。私が、私が…と自分のことしか考えません。判断基準は、すべて自己中心的で、「自分がうまくいけばよい。自分が得られればよい」としか考えていないようです。

○ この世界を暮らしやすいもの、平和な世界にするために、私たちは、ときに自分というものを抑えて、他の人のことを考えなくてははいけません。時々、他の人の喜ぶこと、他の人が嬉しいと思うこと、他の人が幸せになることを気遣い、言ってあげるのです。このように、相手のために思う行う行動を『与える愛』と言います。昔から、「困っている人がいたら助けてあげましょう」とか「人には親切にしましょう」という教えも、この『与える愛』です。

○ 自分が与える側にいる人間であるか、与えられる人間であるかは、一日を振り返ってみれば分かります。今日、自分が他の人から与えられたことと、今日、自分が他の人に与えたことをリストアップしてみて、与えられたことの方が多ければ、自分は与える側ではなく、与えられる側の立場にいることになります。このように一日を振り返ってみると、いかに普段から、自分は親や家族、社会、そして他の多くの人から与えられていることに気がつくでしょう。

○ 相手に心地よい思いをさせることも愛ですから、朝、笑顔で元気に挨拶をすることも、小さな『与える愛』の実践です。食事を作ってくれた家族に、言葉は短くとも心を込めて、「ありがと…」と言ってあげることだって、小さな『与える愛』です。交差点で、自動車が止まってくれたとき、会釈

をすることだって、小さな『与える愛』でしょうし、お店で買い物をしたときに、買った側が「ありがとうございます」と言うことだって、『与える愛』です。これは、逆の立場になってみれば分かります。自分は客だから、お金を払っているのだから…、と横柄な態度の客と、「いいものを売ってくれてありがとうございます」という感謝の気持ちが伝わってくる客と、どちらが気分良く商売できるでしょうか。そういう気持ちの良いお客さんには、もっといいものを、もっと安く、そしてさらにサービスしよう、という気持ちにもなるでしょう。そうすると、お客はまた来店してくれて、いい関係が築けるのではないのでしょうか。

○ 相手に不快感を与えないように気を遣うことも、『与える愛』です。感謝の気持ちを込めることも、笑顔で接することも、相手を思い、心を込めることもすべて『与える愛』です。そう考えることができれば、『与える愛』の実践の場は、世の中に満ち満ちていると思いませんか。

○ さあ、今日から、『与える愛』の実践を試みましょう。そして、いつしかそれが当たり前の行動となり、『与える愛』であることを忘れるくらいになれば、みんなが楽しい生活を送れると思うのです。

